

出展団体一覧

団体名	参加者へのメッセージ
福島県相双地方振興局	福島県相双地方12市町村のご案内と移住に関するご相談を受け承ります。
田村市	福島県の中央東部、阿武隈高原の心臓部に位置する田村市は、美しい丘陵地帯が広がる自然豊かなまちです。2005年に5町村の合併により誕生し、中通りと浜通りを結ぶ交通の要衝として重要な役割を担っています。内陸性気候のため四季の移ろいが鮮やかで、市域の約7割を占める森林が織りなす高原景観は圧巻です。のどかな風景が広がる一方で、中心部には大型商業施設やロードサイド店等が充実しており、「田舎暮らしの情緒」と「生活の利便性」が共存している点が大きな魅力です。郡山市へのアクセスも良く、移住先としてもバランスの取れた地域です。
川俣町	川俣町は、県庁所在地の福島市から車で約30分の距離にある、阿武隈山地西斜面の丘陵地帯に位置している町です。古くは江戸城御用達の川俣シルクを生産し、明治から昭和にかけて当時の輸出花形商品である「羽二重」を織り出すなど、絹織物が盛んな地域としても知られています。こうした機織りの技術を大切に継承しながらも、近年では、電子部品や機械部品の製造業を主力として発展してきました。その他にもアンズリウムやトルコギキョウなどの花卉栽培や川俣シャモ等の一次産業も盛んです。
広野町	福島県東部に位置する広野町は、東に太平洋、西に阿武隈山脈を望む自然豊かな地域です。海洋性の温暖な気候により、地植えでのみかん栽培も可能です。五社山の麓に広がる浅見川渓谷や折木鉱泉など、美しい自然環境に恵まれています。また、広大な芝生エリアや大型遊具を備えた二ツ沼総合公園、Jヴィレッジスタジアムなどのスポーツ施設も充実しています。交通面では、常磐自動車道・広野ICやJR常磐線・広野駅があり、東京や仙台方面からのアクセスも良好です。産業面では、広野工業団地や東町産業団地があり、農業では特別栽培米「とんぼのめがね米」の生産が行われています。
檜葉町	福島第一原発事故により一時全町避難を余儀なくされた檜葉町は、今年で避難指示の解除から11年となり、今では人口の70%を超える町民が帰還しています。町内では伝統文化が復活、新しい文化も広がり始めています。檜葉町は「人も気候もがあたかい、ほどよい田舎」です。東には太平洋、西には阿武隈山地に抱かれ、秋にはサケが遡上する木戸川や井出川が流れる自然豊かなまちです。岩沢海水浴場には1年を通してサーファーが訪れ、夏は海水浴場として賑わいます。町民の憩いの場ともいえる天神岬スポーツ公園にはキャンプ場や芝生の公園、ドックランも完備され、週末には町内外から多くの方が訪れ、自然を満喫されています。
富岡町	◆富岡町 特急が止まり買い物も便利な“ちょうどいい”暮らしと、夜の森の桜や青い海。 豊かな自然のなかで、ゼロからのまちづくりに挑戦できる、変化と活力にあふれた町です。 ◆とみおか暮らし情報館 仕事・住まい・支援制度から暮らし体験まで、 移住者でもある相談員が、仕事探しと移住後の不安を丸ごと解消し、 あなたの新生活をトータルに支える『一番の相談相手』です！
大熊町	福島県浜通りの中央部に位置し、東は海、西は山に面した町です。東日本大震災および原子力災害で全町避難を経験しましたが、令和4年には町の中心地区の避難指示も解除され、大野駅前の交流施設が昨年オープン、令和8年10月にはスーパーマーケットがオープン予定など、今まさに大きな転換期を迎えています。
双葉町	一ふたばに関わる全ての人々と協働する組織として、新しいコトをふたばにうみだし、笑顔あふれる町にする― を経営理念とするまちづくり会社です。「町と人」「人と人」を繋ぎ、復興まちづくりを推進・サポートしていく役割を担い、官民連携・協働による自立活動できる組織、及び民間の知恵を活かした公的な性質をもった組織として設立したまちづくり公社です。現在は移住定住支援、お試し住宅運営、空き地空き家バンク運営、伝承事業、起業・創業支援などの事業を行っています。
福島県社会福祉協議会	福島県社会福祉協議会は社会福祉法に基づき、事業を行っています。その中でも人材研修課内にある「福島県福祉人材センター」では、職業安定法に基づいた「無料職業紹介事業(厚生労働大臣許可)」を行っています。 ・就職相談を始め資格取得や求人の情報提供の支援 ・学生に対する福祉教育の推進 ・県内外から福島県相双地域等に介護職として就職する方への支援 など